



第81巻 第3号  
年4回発行  
社会福祉法人 慈生会  
〒165-0022  
東京都中野区江古田3-15-2  
TEL 03-3387-5567  
http://www.jiseikai.jp  
振替口座 ベクニアの家  
00170-6-15317

聖母子像への想い

大橋 康雄

乳児院ナザレットの家は建物の老朽化と、ベトレヘム学園との合築を機に、二〇一七年十二月、清瀬市に移転しました。中野時代には、正面玄関の左脇に松谷謙司先生のモザイク画「森の聖母子」がありました。移転後は、建物の裏側の壁面に設置され、いつも目にするのが出来なくなっていました。でも、聖ヨゼフ・聖家族ホームのお年寄りからすれば、素敵な絵が登場して喜ばれていることでしょう。



今年の二月二十六日、清瀬市内で研修会があり、その帰りに清瀬教会のミサにあずかりました。考えてみたら、昔、障害を持った方々の作

品の販売で清瀬教会には何度もお邪魔していました。清瀬教会のミサにあずかるのは初めてである事に不思議な気がしていました。ふと、祭壇の方を見ると、秋津教会の野口神父様ではありませんか。「当教会の西川神父様が今朝、転倒して入院されましたので私が代わりに・・・」とお話されていました。以前、上野教会の教会報「うぐいす」(188号)で西川神父様が亡き松谷先生を偲んで彫像作家としての歩みを語っておられました。私にとって、それは、松谷先生の事を知る貴重な情報源でした。那須の山にあったアトリエを案内して下さった事、聖ヨゼフホーム増築の時、キリスト像を運び込まれた松谷先生の姿が思い出されます。

私は、六十を過ぎてからカトリックに入信しました。私の所属教会は、住まいに近い川越教会です。川越教会の聖堂の十字架のイエス・キリスト像と聖母子像は、偶然にも松谷先生の手によるものでした。聖母子像



といえば、多くは、マリア様が赤子であるイエス様を抱っこしているか、両手で高く持ち抱えている像が浮かびます。松谷先生の聖母子像は、両手を左右に広げているイエス様をマリア様が後ろから両手をそえ、うつむきかげんに見守っておられます。この聖母子像は、乳児院の職員の方の姿勢を暗示しているように思えるのです。乳児院の職員は色々な事情によって入所に至った子ども達を、まずは受け止め、それぞれ穏やかな生活を取り戻し、それから安心して生活できる場に子供たちが一日も早く復帰、移行できるようにと願っております。

ど心から湧き上がる想い。人差し指は学ぶ共同体。中指は、交わりの共同体。薬指は、奉仕の共同体。特別なことではなく職員一人ひとりの役割の中で、小さな事に心を込めて行うこと。小指は、証しの共同体。特別な何かをするのではなくナザレットらしさを生きていく事である。「というお話でした。「祈り」の共同体として子ども達から必要とされている事への喜びを素直な気持ちで受けとめるには、私たちが初心に返って、改めて乳児院の子供達への想いを思い起こすことが大切だと感じました。「証し」の共同体になるためには、乳児院の多機能化が求められている昨今、ナザレットの家が何を目指していくのかを皆で確認していく必要があるでしょう。

福祉施設の目的実現のため、運営計画に基づき専門知識のある専門職集団が実践しています。そこに私たちが目指す想いを何らかの形で込められたら良いと思います。これからの一年間、指の一本一本の役割が実際のナザレットのどこに当たるのか、指と指が繋がって、どの様な手のひらになっているのか、(共同体としてのナザレットらしさ)を見出していければと思います。

(ナザレットの家施設長)

コロナと戦った四十日

白井 智子

今、みこころホールから賑やかな太鼓や篠笛の音色が聞こえてくる。この音を今まで以上に楽しめるのは非日常を経験したからに違いない。

二〇二二年冬、全国的に新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増え、冬の間は、冬の帰省を中止し感染予防策に力を入れていた中で「発熱者あり」の報告は一気に緊張感を高めた。一月二十日、昨晩から発熱している利用者は医療機関を受診し、PCR検査を受けた。結果は陽性。恐れていたこの言葉に背筋が凍る思いがした。

新型コロナウイルス。彼らは何の予告もなく突然マ・メゾン光星に襲い掛かってきた。それからの四十日間には経験したことがないことの連続で、心も体も疲弊させられていった。最初の感染者はめぐみファミリーの利用者三名。発熱と咽頭痛といったコロナの典型的な症状。通所部を閉鎖して隔離棟として運用開始、職員は慣れない防護具に身を包み、その姿に利用者は驚いていた。集団生活のため陽性者が出た時点で既に他者へも潜伏している可能性がある。医務室は対応に頭を悩ませていたが、

すぐに県の感染対策チームが来所してくれたため、アドバイスをもらいながら、感染拡大を防ぐためのゾーニング(清潔区域と汚染区域を明確に区分けすること)の設定をした。

さらに、今後予測されることへの対応などを細かく指導してもらい、多少なりとも不安の軽減を図ることが出来た。一方で支援現場の職員も自分達は濃厚接触者なのか、すでに感染しているのではないかと、PCR検査はいつ受けられるか、不安を抱えながらも日々の業務に加え感染対策も担ってくれた。

嫌な予感の中するもので、最初の感染発覚から三日も過ぎれば発熱者は続々と現れ、他のファミリーへの感染も明らかになった。一週間も経たないうちに感染者は四十名まで増え、当初予定していた療養場所だけでは足りず、みこころホールまで拡大していた。それでも足りなくなり、生活の場そのものを感染者が過ごす汚染区域(レッドゾーン)にしなくてはならない事態に陥った。生活の場を汚染区域にすることで感染拡大に拍車をかけたのかもしれないが、日々拡大し続ける感染状況を目の当たりにすれば、それ以外の方法は見つからなかった。最終的には六十七名もの利用者が感染し、十五名の職員が感染、大規模クラスターを引き起こしてしまった。高熱や酸素飽和度低下により入院を余儀なくさ

れた利用者も数名いたが幸いにも重症化はせず、十日程で退院してきた。いつかは入ってくるかもしれないと思っていたコロナだったが、感染力や感染スピードは想像をはるかに超えていた。それでも弱音を吐くわけにはいかず、踏ん張っていたため「保健所から終息宣言が来ました」と伝えられた時は心の底からホッと、して不安から解放された気持ちになったことを憶えている。

今、利用者の賑やかな声が聴こえる。時に大きすぎると感じるこの声も、当たり前の日常があるからこそ瞬間。決して備え過ぎと言われることは無い。あんな思いをするくらいなら日頃から備えておこう。毎日を平凡に過ごすためにも・・・。最後に、感染の心配から自宅へ帰れない職員のためにマリア修道院を開放して頂いたベタニア修道女会の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



みこころホールを療養場所に

(マ・メゾン光星 副主任看護師)

ベタニアの家 永年勤続表彰者

(三十年表彰)

相談支援事業所ノエル 菊地 清樹

(二十年表彰)

法人本部 江間 公義

徳田保育園 秦 亜紀代

ベタニアホーム 太田 博之

ベタニアホーム 勝村 素子

ベタニアホーム 加藤 雅子

ベタニアホーム 越川あゆみ

慈しみの家 永崎 涼子

訪問看護ステーション 大石 義一

聖家族ホーム 木賀 時之

聖ヨゼフ老人ホーム 宮島健太郎

ベトレヘムの園病院 森田 紋子

(十年表彰)

徳田保育園 鈴木佳誉子

ベタニアホーム 栗岩 絵梨

地域包括支援センター 野崎 博人

ナザレットの家 蛭間 麻里

ベトレヘム学園 石橋 沙織

聖家族ホーム 木嶋 大

聖ヨゼフ老人ホーム 関口 涼子

聖ヨゼフ老人ホーム 中尾 亮仙

ベトレヘムの園病院 丸山 明美

ベトレヘムの園病院 保田しのぶ

ベトレヘムの園病院 安達 千枝

ベトレヘムの園病院 草野 広美

ベトレヘムの園病院 額川早香江

相談支援事業所ノエル 常盤 智美

エスポワール 山田保奈美

篠塚 美苗

お花見会と甘酒

中村 英男

今年のお花見は隣の江古田の森公園へお出かけして、と思いましたが、コロナ禍が収まらず、残念ながら昨年同様に室内で桜を楽しんでいただけのように、昨年は70本でしたが、今年は100本の桜の木を準備しました。奈良の啓翁桜です。つぼみで届いた桜は、ケアハウス(慈しみの家)の入居者の方たちが、10個の花瓶に分けて生けてくださり、お花見の当日(3月27、28日)まで室温管理をしながら、その日に満開になるようにお世話してくれました。



お花見の日には、2階エレベータホールと3階テラスにお花を飾り、利用者の皆さんをお連れすると、お一人おひとりの顔が「ぱっ」と明るくなり、「わーすごい」「きれいねー」と喜ばれていました。今年はお昼のお花見御前のほかに、甘酒も用意し、桜を見ながら楽しんでいただきました。お花見の日からは、桜を食堂やデイルームで若葉が出るまで楽しんでいただきました。



(ベタニアホーム施設長)

令和3年度決算報告

法人全体の貸借対照表の要旨 (令和4年3月31日現在) 単位:千円

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	2,137,434	流動負債	385,512
固定資産	6,818,437	固定負債	793,959
基本財産	3,439,238	負債合計	1,179,471
その他の固定資産	3,379,199	基本金	1,630,347
		国庫補助金特別積立金	1,392,404
		その他の積立金	2,318,691
		次期繰越活動収支差額	2,434,958
		純資産合計	7,776,400
資産の部合計	8,955,871	負債・純資産の部合計	8,955,871

社会福祉法人 慈生会  
令和3年度 決算報告

六月八日の理事会および六月二十三日の評議員会で、令和3年度の決算が承認されましたので、その要旨を報告いたします。

事業活動計算書の要旨 (令和3年4月1日～令和4年3月31日) 単位:千円

事業区分	収入	支出	差額
社会福祉事業区分	3,687,230	3,658,306	28,914
公益事業区分	170,422	165,540	4,882
収益事業区分	0	0	0

財産目録の要旨 (令和4年3月31日現在) 単位:千円

区分	金額
資産の部	8,955,871
基本財産土地	(592,717)
基本財産建物	(2,846,521)
負債の部	1,179,471
差引純資産	7,776,400

資金収支計算書の要旨 (令和3年4月1日～令和4年3月31日) 単位:千円

事業区分	収入	支出	差額
社会福祉事業区分	3,771,363	3,867,180	-95,817
公益事業区分	186,189	181,504	4,685
収益事業区分	0	0	0

# 未来の子どもたちからの 預かりもの 種まきシリーズ ② ベタニア修道女会



SDGs (持続可能な開発目標) キーワードは「誰一人取り残さない」そして、「ずっとこの地球に生きていけるよう みんなが幸せでよりよい社会をつくろう」という取り組みです。

一七項目すべての目標が関わりあっていますが、今回は次の二つの目標に触れたいと思います。

☆『一番 貧困をなくそう (生活に困る人がいないようにしよう)』

貧困解決が一番目に置かれています。あらゆる問題に関わる課題だと考えられているからです。一日約一四〇円未満で生活する「極度の貧困」を二〇三〇年までになくすことです。当てはまるのは世界人口の一〇%にあたる七億人以上とされています。原因はさまざまな災害、不安定な経済、根強い差別などです。難民が隣国に移り住む問題などもあります。

☆開発途上国に対する問題に思えますが、日本の子供の六〜七人に一人が貧困だと言われています。「相対貧困」と呼ばれ、絶対貧困とは異なりますが、解決しなければならぬ問題です。

☆『一七番 パートナリシップで目標を達成しよう (一人では無理 偉い人だけでも無理 地球みんなで目指そう)』

先進国、途上国を問わず、すべての国に「誰一人取り残さない」「誰も置き去りにしない」ための行動が求められています。身近なパートナーシップが必要です。国としてはODN (政府開発援助) などがあります。世界的にこれも年々減少しています。(聖母訪問会SDGsの取り組み資料より一部引用)

修道会の取り組みで、カトリック東京国際センター (CTIC) への食糧支援と、主に関東地域に散在する在留資格のない難民申請者等の生活困窮者の生活支援などを行っている「ともだち基金」への献金を始めています。修道院では、有るものの中から献金すればよいというのでは何か違う。私たちも少しでも痛みを共有できないかと毎週土曜日簡素な食事 (納豆・佃煮など、電気・ガス・水も最小限に) を選択し、普段食費にかけている分を献金に当てようと共同体で決めました。私たちも小さなことから日常生活に取り入れることができ、それを積み重ねると大きな変化につながると思うのです。

(記・Sr川鍋)

## 編集後記



まん延防止措置が解除され、しばらくしてから (5月中旬)、ホームではご家族の面会を予約制ではありますが、一階のホールにて対面形式で行うようにしています。面会数が多い日は、対応に大忙しな時もありますが、喜んでおられる利用者の皆さんやご家族の表情を見ると「よかった」と思う、きょうこのごろです。

(中村 英男)

ベトレム学園の全体目標の1つに「あいさつをしよう」がある。あいさつは当たり前のことだが、なかなか出来ていない。子どもたちの見本にと職員が率先してあいさつを続けている。先日見学に来ていた外部の方々にも子どもたちが「こんにちは」と元気よくあいさつができており見学者の方々にも好評であった。これからも、当たり前に出来るように続けていきたい。

(関 広宣)

もうすぐ暑い夏がやってきます。引き続きコロナもありますが、折角の夏。この季節にしかできない事を楽しみたいと思います。自然を満喫したり、野外で美味しい料理を楽しんだり。そして夏は夕涼みが最高です。ひぐらしの声を聴きながら、徐々

に暮れていく夕日を眺める・・・。そんなゆったりとした時間を夢見ながら、今日も自分のするべき事をこつこつとこなしていこうと思います。

(杉山 智和)

上記の種まきシリーズにあるCTICへの食糧支援の続きになります。七つの修道院が五月中にお捧げした献金を合算し、リクエストのお米をスーパーの超お買い得品をせっせと買い求め、六月初めにお届けしました。CTICでは、ベタニアからは六十キロ位来るだろうと予想していたのですが、緊急にお米支援の必要な方があって差し上げ、六月は不足が見込まれていたので、六月はベタニアから届いたこと不足分はなくなり、これは神さまが必要なくる証しでしょう、と皆で喜び合いました。

(Sr中野 利恵)

### ご寄付のお礼と報告

瑠璃草4月号をお送りする際、ご寄付の願いを同封させていただきました。26件 65万2千円のご支援がありました。個々のご寄付のほか、温かい励ましのお言葉も多数いただいております。

このようご厚意に対し、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

ご寄付は大切に福祉事業発展の為に使用させていただきます。これからも全職員が一丸となって、安心、安全なケアを提供できるよう、努めてまいります。

ベタニアの家 代表 田代嘉子